

## V 日高振興局

### 1. 県議会議員と日高地方農業士会との意見交換会

日高地方農業士会（山田裕司会長）は、8月1日に日高振興局別館会議室において、県議会議員と日高地方の農業に関する課題について意見交換を行った。この意見交換会は、地域のリーダーである農業士が日高地方の農業振興に資することを目的に、平成19年から始まり、平成23年から隔年で開催しており、今回で9回目となる。当日は、同会役員理事17名と御坊市・日高郡選出県議会議員4名、オブザーバーとして日高振興局長及び同農林水産振興部長が出席した。

意見交換会のテーマは、①農地の維持と耕作放棄地対策、②鳥獣害（サル）対策、③担い手対策であり、これらは各市町農業士会からの事前提案により決定した。

まず、「農地の維持と耕作放棄地対策」については、水田の維持に絞って意見交換がなされ、農業士から高齢化や農業機械の故障を機に営農をやめることが多い中、地域の借り手農家も耕作面積が限界となっている現状を説明し、借り手への支援、県産米の消費拡大について意見が出された。

次いで、「鳥獣害（サル）対策」では、近年サルによる農作物被害が問題となっており、耕作放棄地の増加につながることから対策を望む意見が出された。農業水産振興課から県が行っているGPSを活用した行動域調査について説明をした。

最後に、「担い手対策」では、農家子弟への支援策、農業高校との連携、労働力不足対策について意見が出された。

それぞれの課題について、県議会議員から提言や助言をいただき、参考となった。また、今回の意見交換が今後の議員活動に活かしていただき、日高地方の農業振興につながれば幸いである。



意見交換会



意見を述べる県議会議員

## 2. 日高地方農村青年交流会を開催

8月24日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（堀昇平会長）主催による、日高地方農村青年交流会を開催し、日高地方の農業青年と異業種の女性ら合わせて14名が参加した。

本交流会では、日高地域の産品や農業について異業種の方にもっと知ってもらい、その魅力を感じてもらおうと、特産の「梅」を用いた農産物加工体験や施設の見学を行った。

体験メニューでは、梅染愛好会にて梅染めの魅力を発信しているみなべ町指導農業士の二葉美智子氏を講師として招き、染色に用いる梅の樹皮、染料抽出時間、染色素材と織り方、染色時間で風合いの異なるオリジナル梅染めストール作りを楽しんだ。その後、みなべ梅郷クラブが講師となり、みなべ町特産の「南高」他、新品種の「露茜」「翠香」の計3種類の梅を使った、「冷凍梅で簡単マイ梅ジュース作り」の説明が行われた。「南高」以外の梅を見る参加者も多く、できあがりを楽しみに互いに和気あいあいとジュース作りに取り組んでいた。

また、体験後は、梅郷クラブ員の農園を訪問し、園地や梅干し作りの現場を園主の説明交えて見学した。梅干し作りを間近に見学でき、女性参加者らの関心は大変高かった。

参加者からは、「体験を通じて梅の魅力を知ることができたのでよかった」、「また機会があれば体験交流に参加したい」との声があった。普段交流する機会のない異業種の方々に對し、加工体験や産地見学を通じて日高の魅力を伝えることができ、有意義な交流会となった。



完成したオリジナルの梅染めのストール



3種の梅を使ったマイ梅ジュース作り体験

## 3. 「農トレ！ひだか」 ～第2回セミナー開催～

8月30日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（堀昇平会長）と日高振興局農林水産振興部の共催により、管内の若手農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第2回セミナーを開催した。4Hクラブ員他合わせて17名が参加した。

今回は、農業現場の労働力確保に焦点を当て、海南市下津町で「蜜柑援農」に取り組まれている FROMFARM 代表の大谷幸司氏を講師として招き、援農の取組背景や仕組み、その成果や課題などについて講演いただき、その後講師と参加者らとの座談会を開催した。

若い労働力として期待される援農者は、単にお金儲けや日給の高さで来るわけではなく、

「生きがい」や「働きがい」を求めていること、リピート需要がある一方で、募集ツールは口コミやSNSがメインであることその他、地元農家の支援・協力体制、空き家確保の重要性についても説明いただいた。また、講師との座談会では、「金額設定の基準は?」、「空き家を貸してもらうコツは?」、「天候不順による作業中断時の給与の対応は?」など、援農時に想定される疑問点について、講師と情報交換を行った。参加者からは、「援農の実態が学べ参考になった」、「今後、援農を検討する上で、講師とつながりができてよかった」との声があった。



援農の取組について説明を聞く参加者



講師を交えての座談会